

令和8年度校内研修計画

1 研究主題

主体的に学びに向かう子供の姿を目指して —「自分で学ぶ 仲間に学ぶ とともに学ぶ」子供と教師の学びのデザイン—

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題と学習指導要領等から

生成 AI（人工知能）の台頭や DX（デジタルトランスフォーメーション）の急速な進展は、社会構造の複雑性を深め、VUCA（変動性・不確実性・複雑性・曖昧性）の特性をさらに増幅させている。人口構造の変容、激甚化する自然災害や気候変動、不安定化する社会経済情勢など、これからの時代は不確実性と不透明さを増していく。このような先行きの見通せない社会を生き抜くには、自ら考え、見通しを立て、主体的に行動してよりよい未来を創り出す力が不可欠である。

令和7年9月、中央教育審議会より公表された「次期学習指導要領に向けた論点整理」においても、現在の学校教育において主体的に学びに向き合っていない子供の現状が指摘された。そこでは、学びの動機付けをアップデートする必要性や、予測困難な時代をしなやかに生き抜く「自らの人生を舵取りできる力」の重要性が述べられている。具体的には、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手」の育成が明記された。

受動的な知識習得から脱却し、主体的に問いを立て、生涯にわたって学びを自己調整し続ける「自律した学習者」を育むことが、今、教育現場に課せられた喫緊の課題であると言える。

(2) 学校教育目標等から

図1に本校の「学校教育目標」及び「目指す学校像」を示す。本研究の主題である「主体的に学びに向かう子供の姿」を目指すことは、「学校教育目標」や「目指す子供像」とも重なり、それらの具現化に向けた取組の推進に資するものである。

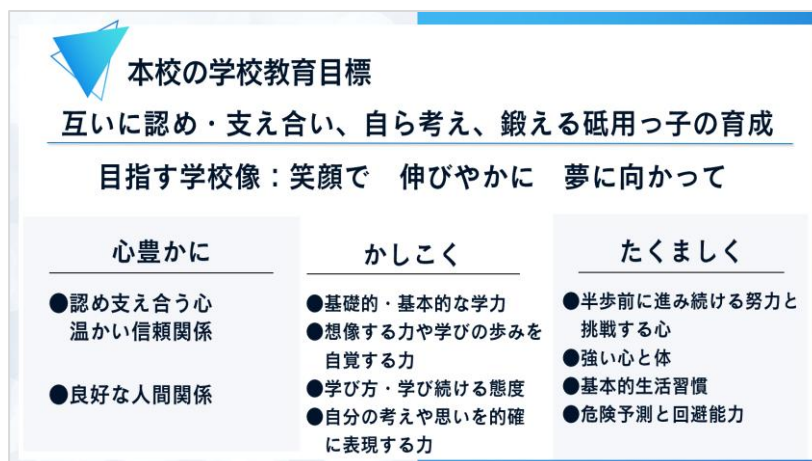


図1 学校教育目標・目指す子供像・育てたい資質・能力

(3) 本校児童の実態から

昨年度2月および本年度4月には、熊本県学力・学習状況調査の結果等を踏まえ、「本校児童のよさと伸びしろ」について協議をした。その結果、子供たちには「自主性」や「計画を立てる

力」、「自ら判断する力」といった、学びを自分自身でコントロールする力をより高める必要があることが明らかとなった。

また、子供たちの姿のみならず、「私たち教職員のよさと伸びしろ」についても協議を行った。そこでは、さらなる「授業力の向上」に加え、前例にとらわれず「新しいことに踏み出す姿勢」の重要性が共有された。

これらの協議内容（図2）を総括し、本年度は「主体的に学びに向かう子供の姿」の具現化を目指し、子供たちの学びの変容と、それを支える教師自身の学びを連動させながら、学校一丸となって研究を推進していく。

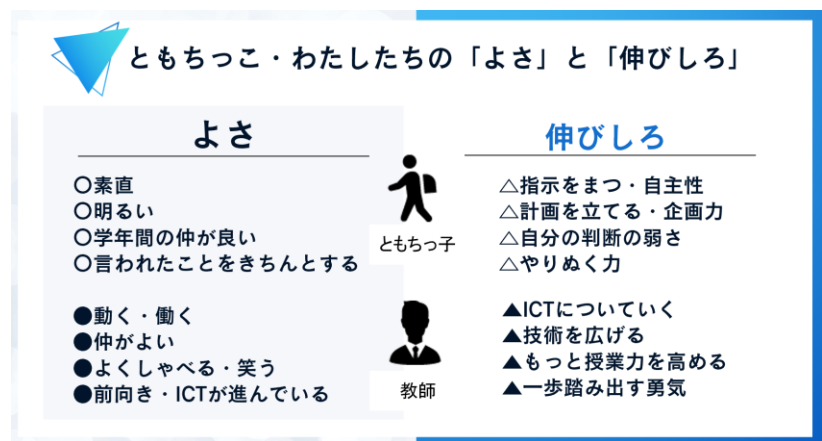


図2 職員での協議結果(抜粋)

3 研究主題について

(1) 「主体的に学びに向かう子供」とは

令和3年1月、中央教育審議会より『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（以下「中教審答申」）が出された。その中では、

「主体的に学習に取り組む態度」について、子供が自らの学習状況を客観的に捉え、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む側面が重要であると述べられている。

これを受け、本校では年度当初の校内研修において、目指すべき「主体的に学びに向かう子供の姿」について全職員で協議し、共通理解を図った。職員で協議した本校における具体的な児童の姿をまとめたものが図3である。

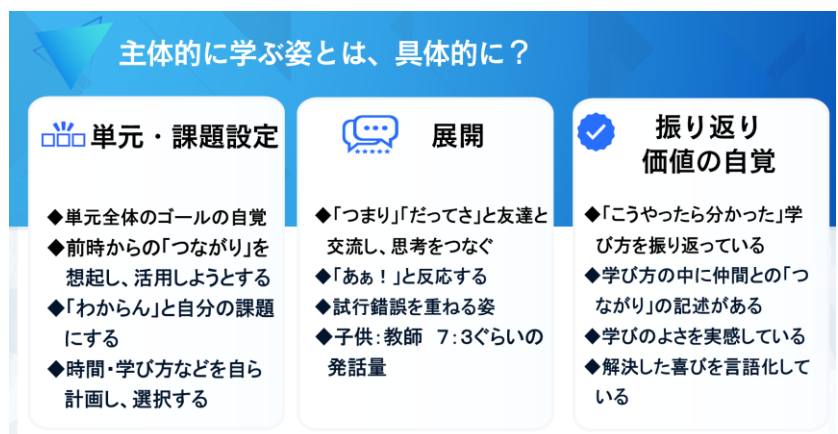


図3 本年度4月の職員での協議結果(抜粋)

（２）「自分で学ぶ 仲間に学ぶ とともに学ぶ 子供と教師の学びのデザイン」とは

中教審答申においても、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが示されている。本校では、主体的に学びに向かう子供を育むにあたり、子供たちが与えられた課題を向かう受動的な学習に留まるのではなく、自らの学び方を自ら調整する「学びのデザイン」の力を育成したいと考える。本研究では、「学びのデザイン」を、子供たちが目標達成に向けて最適な手段や他者との関わり方を選択しながら、主体的に学習を構築していく過程と定義する。あわせて、多様な他者との対話を通じて自分の考えを客観視し、「納得解」や「新たな価値」を創出する経験を重視したい。

また、教師自身が自らの授業を省察して個々の課題を設定し、同僚との対話を通じて協働的に実践をアップデートし続ける「主体的な学習者」でありたいと考えた。

「子供の学び」と「教師の学び」が相似形となるような校内研修の在り方を再考し、教師自身の変容を通し、主題に迫りたいと考えた。

これらのことを受け、本年度は「自分で学ぶ・仲間に学ぶ・ともに学ぶ」という視点で学びの姿を整理した。「自分で学ぶ」を、個々の興味・関心や習熟度に応じて自律的に学習を調整する「個別最適な学び」の姿として捉えている。また、「ともに学ぶ」を、学級全体で課題を共有し、多様な視点から高め合う「協働的な学び」の姿と位置付けた。「仲間に学ぶ」は、他者の考えを取り入れて自らの思考を更新する「個別最適な学び」の側面と、対話を通じて新たな解を導き出す「協働的な学び」の側面を、双方ともを含むと考えた。

これら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還させ、子供たちが学びのデザインを構築することで、研究主題の達成に迫りたい。本取組にあたっては、中教審答申や「第４期教育振興基本計画」（文部科学省、2023年）を基に、図４のような学びの姿のイメージをもち、取組を推進することとした。

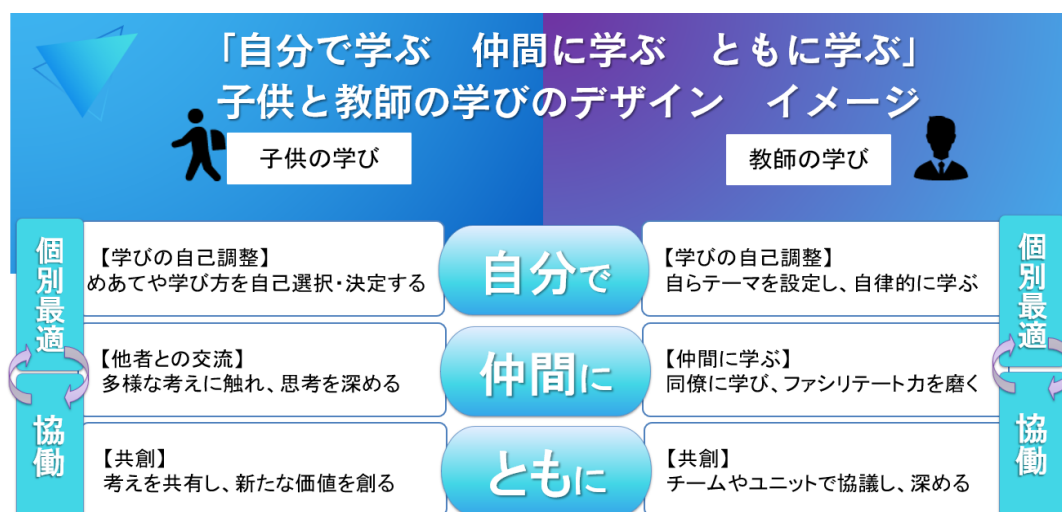


図４ 「自分で学ぶ 仲間に学ぶ とともに学ぶ」 イメージ図

Ⅱ 研究の構想

1 研究の仮説

「自分で学ぶ 仲間に学ぶ とともに学ぶ」子供と教師の学びのデザインを行うことで、主体的に学びに向かう子供の姿に近付くことができるであろう。

2 研究の視点

研究の仮説を検証するために以下の2つの視点に基づいて研究を進めることとした。

視点1 子供の学びのデザイン

子供たちの「自己調整」と「協働的な学び」を意識した授業づくり

視点2 教師の学びのデザイン

教師の「自己調整」と「協働的な学び」を活性化させる校内研修の構想

(1) 視点①について

本校では、「教師主導の学び」から「子供主体の学び」への転換を目指している。5月に実施した「学びのデザイン・アンケート」(図5)では、子供たちから「先生が主導の授業はつまらない」「意見を交流したり、友達と問いを解決したりする学びをしたい」という思いが示された。

これらの実態を踏まえ、本研究では、「子供が学びの選択と決定を繰り返し、協働的に学びを深める授業」を重視することとした。図

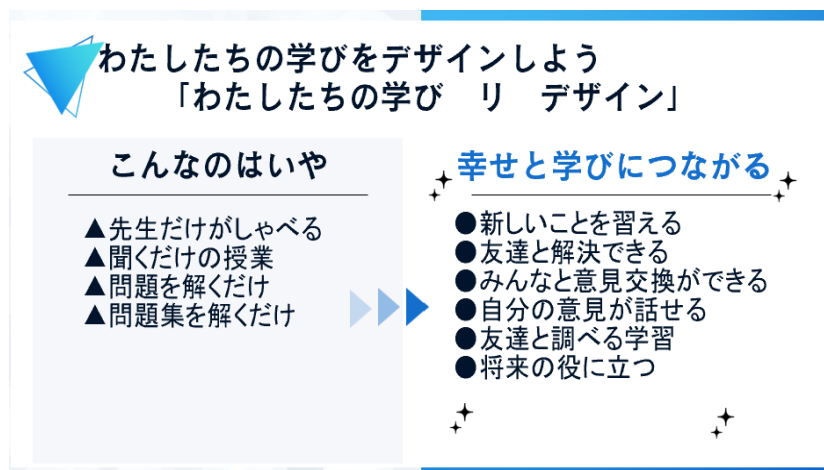


図5 「ともちっこの学びをデザインしよう」アンケートより(抜粋)

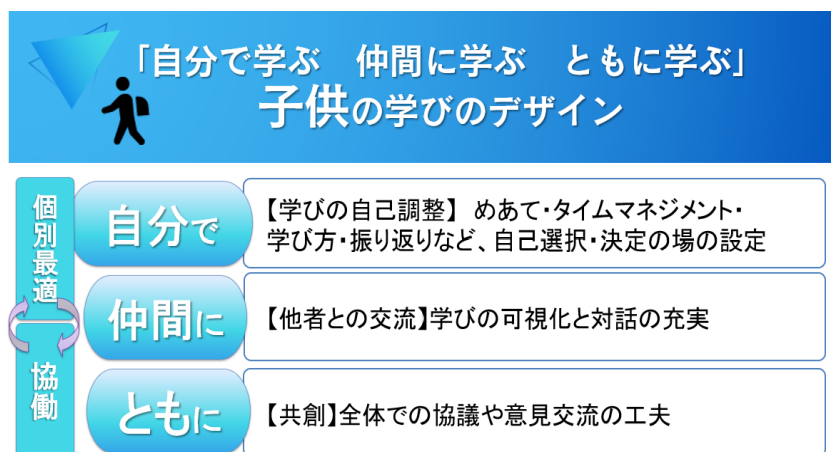


図6 「子供の学びのデザイン」

6に示す手立てを講じるとともに、ICTを「学びの選択」「学びの可視化」「意見の共有」のための基盤として活用し、子供が自らの学びをデザインできる環境を構築していく。

(2) 視点②について

令和4年12月に中教審より『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について(答申)」では、教師の研修に関して「受動的な研修」から「主体的な学び」への転換、および経験や専門性に応じた「自律的な学び」の重要性が示された。

これを受け、本年度4月の校内研修において、座談会「校内研リデザイン」を実施し(図7)、「校内研を自

分たちの学びと幸せにつなげよう」という共通認識を図った。

本年度は、授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」を教師自身の学びにも適用し、図8のような教師の学びのデザインを推進する。具体的には、学校の研究テーマを中核に据えつつ、教師それぞれが「自ら高めたいファシリテート力」に関する個人テーマを設定し、1年間を通して協議や検証を行う。また、従来の講義型研修から、各職員の強み(教科、ICT、実践など)を生かした相互研修を設定する。そして、特定の授業フェーズ(単元構成、課題設定、振り返り等など)や個人のテーマを基に少人数の「ユニット」を編成する。授業公開や動画を通し、互いの授業についてリフレクションを繰り返す「協働的な学び」を活性化させていく。

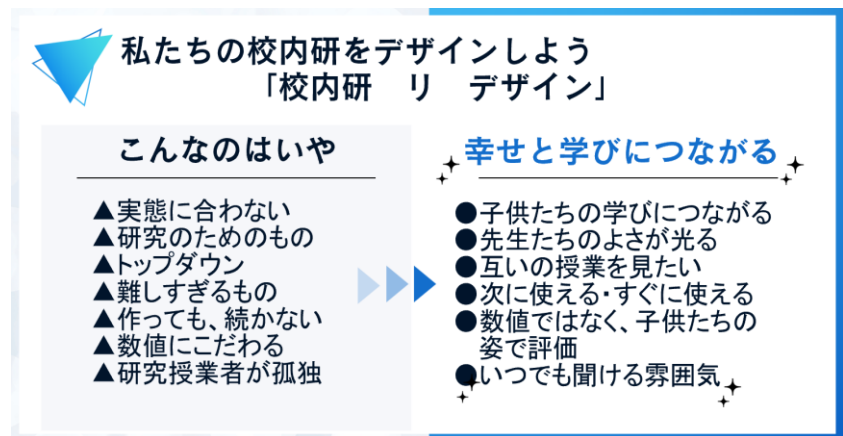


図7 座談会「校内研 リ デザイン」で出た意見(抜粋)

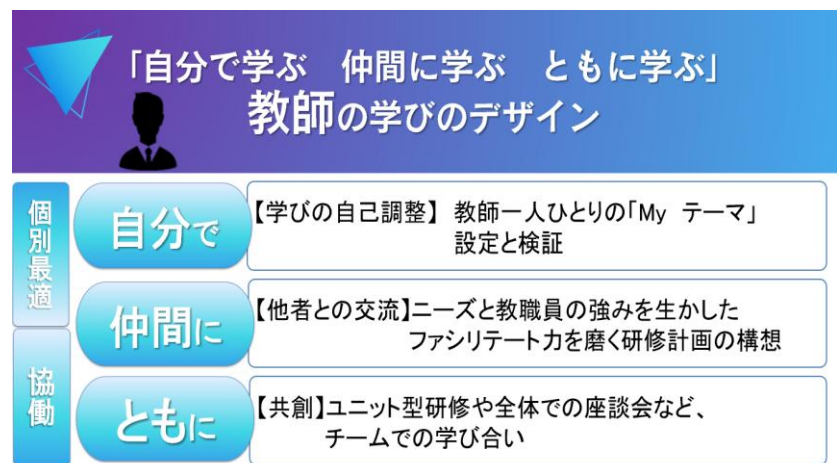
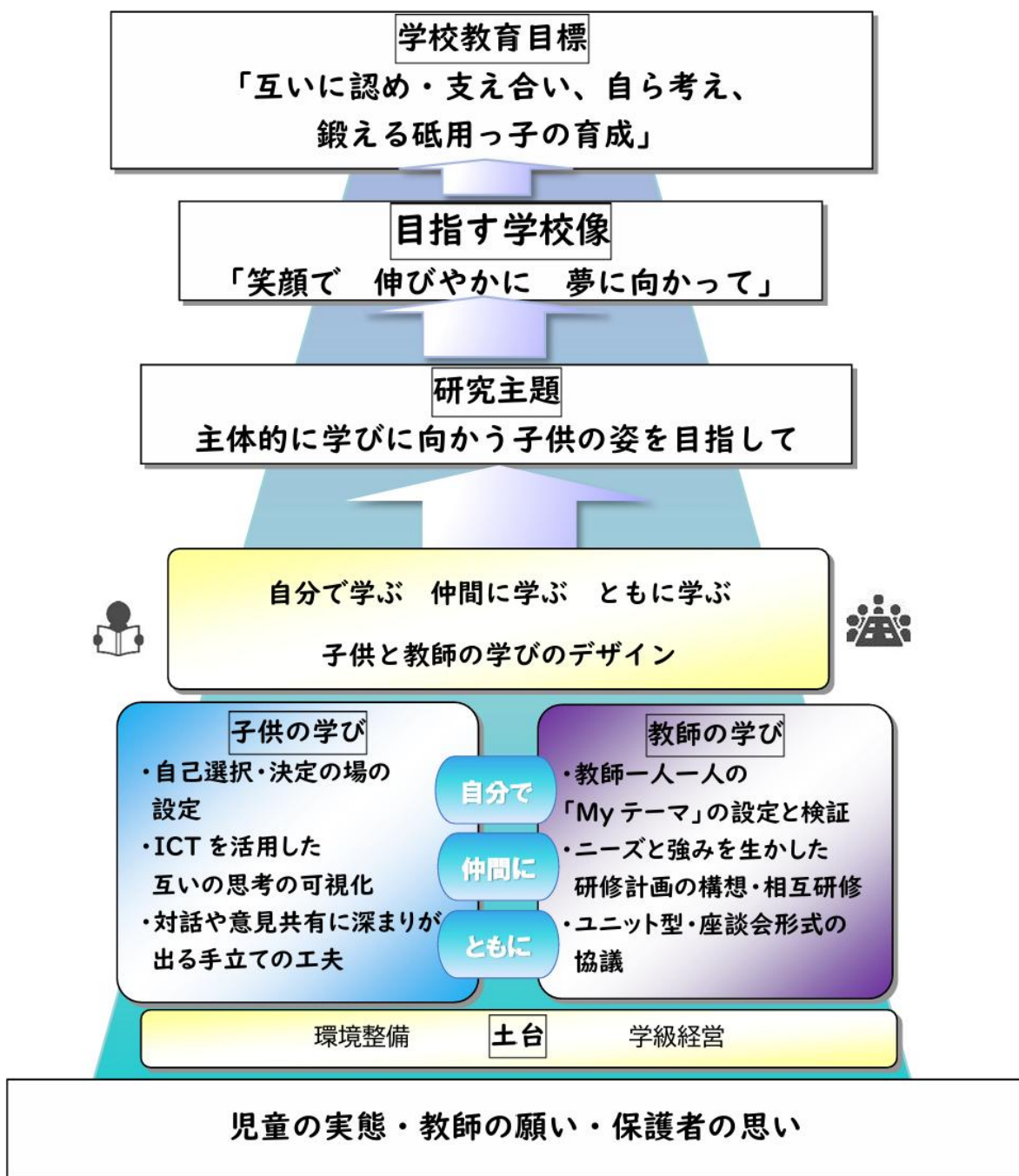


図8 「教師の学びのデザイン」

3 研究構想図



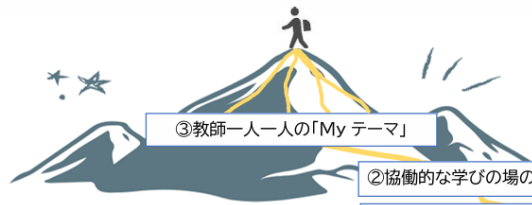
4 研究・研修計画

これ一枚で分かる
R8 チームともち 校内研
ロードマップ

研究主題
主体的に学びに向かう子供の姿を目指して
―「自分で学ぶ 仲間に学ぶ ともに学ぶ」子供と教師の学びのデザイナー―

【ビジョン】 主体的に学ぶ子供の姿を目指して

【校内研 今年の見どころ】



②協働的な学びの場の充実

①自己選択・決定の場の設定

ほりほりフレーズなど

学び方シート活用

- マイテーマ設定
- 全員の強みを活かした相互研修
- ユニット結成・協議
- 授業公開フェス & 動画持ち寄り



回	月	日	メインテーマ	ファシリテート担当	研修の目的	アイスブレイク (5分程度)	おすそわ研 (15分程度)	備考
1	4月	15	座談会 「幸せで、学びにつながる校内研とは？」	太田・久村	校内研の在り方を共有	太田		
2		22	座談会 「主体的に学ぶ姿とは？」	太田・久村	目指す姿の共有	太田	児童理解	
3	5月	13	本年度の研究提案 私のテーマ設定	太田・久村	本年度の取組の共有・個人のテーマ設定	久村		
4		27	アレルギー対応・SCについて	鬼海	食物アレルギーの対応	吉村		講師(SC)
5		3	個人テーマの詳細検討 ユニット別協議	太田・久村	チーム協議を通した個人テーマのブラッシュアップ		チームICT 佐々木・久村・蛇嶋	
6	6月	10	小中連携授業事前研究会(模擬授業)	太田・久村	模擬授業を通した研究授業のブラッシュアップ	中川		
7		24	小中連携授業研究会(砥用小担当)	中川/太田・久村	授業者から学ぶ・参加者から学ぶ	太田		
8	7月	15	ユニット別 授業づくり前半戦①	各ユニット	学校訪問での授業を構想、ユニットで協議	八尋・園田		
夏 の 自主研 (自由参加)			図工 ワークショップ	上田	絵画展へ向けての技法を学ぶ			
			音楽 ワークショップ	上田	楽器(等)演奏方法を学ぶ			
			ICT コース別ワークショップ	チームICT (佐々木・久村・蛇嶋)	ニーズに合わせ、コースを開設			
			職員室 期間限定貸出本コーナー作成	全員・坂井	職員間での本貸出コーナー作成(夏休みのみ)			
9	8月	31	不審者避難訓練/人権教育について	中川・蛇嶋/園田	不審者対応について協議・実践/人権教育について			講師招聘
10	9月	2	ユニット別 授業づくり前半戦②	各ユニット	授業構想+ユニットシャッフルタイム		国語ミニネタ・授業づくり 田中教頭	
11		9	ユニット別 授業づくり前半戦③	各ユニット	模擬授業、板書等の見せ合いを通した 授業のブラッシュアップ		チームICT 佐々木・久村・蛇嶋	学校訪問
12		7	自分の授業をブラッシュアップ！	各ユニット	授業動画(学校訪問)を持ち寄り、ユニット別で協議		算数ミニネタ・授業づくり 松下校長	
13	10月	21	ユニット別 授業づくり後半戦①	各ユニット	公開授業へ向けたユニット別協議		チーム特別支援 井津・吉村・佐々木	ユニット変 更も検討
14		29	ユニット別 授業づくり後半戦②	各ユニット	// + ユニットシャッフルタイム		授業づくり・ミニネタ 蛇嶋	
15	11月	4	ユニット別 授業づくり後半戦③	各ユニット	//		人権教育について 園田	
11月・12月			授業公開フェス(全員)	各ユニット	ユニットの先生へ向けて授業公開・学び合い			講師招聘
16	12月	9	自分の授業をブラッシュアップ！	各ユニット	授業動画(公開授業)を持ち寄り、協議・シェア	中川		
17		16	いのちの教育 授業づくり	鬼海・各担任	いのちの教育の授業準備	教頭		
18		13	座談会「働き方改革」	教頭・太田	働き方改革について協議		チーム特別支援 井津・吉村・佐々木	
19	1月	20	体育 実技研修	実技研修復講	実技研 復講 各学年の内容のシェアと体験			
20		27	人権レポート研修	園田	人権レポートを読み合い、それぞれの実践から学ぶ		道徳授業づくりについて 八尋	
21		3	県学力学習状況調査 分析	中川・太田	本年度の取組の省察			
22	2月	10	※検討	太田	ニーズを再調査・設定			
23		24	本年度の総括と来年へ向けて	太田/久村	本年度を振り返り、来年へ活かす	久村		